

環境憲章

日野環境チャレンジ2050

CHALLENGE! 1

CHALLENGE! 2

CHALLENGE! 3

CHALLENGE! 4

➤ CHALLENGE! 5

CHALLENGE! 6

主要パフォーマンスデータ

環境マネジメント

マテリアルバランス

CHALLENGE! 5 廃棄物ゼロチャレンジ



各事業所で

持続可能な資源利用 廃棄物ゼロ



世界人口は増加し、経済発展による資源枯渇のリスクは年々高まっています。また大量消費社会の副産物となる廃棄物も増加を続け、このままでは適正な処理が追いつかずに、深刻な環境汚染へとつながりかねません。日野グループでは「廃棄物ゼロチャレンジ」という高い目標を設け、廃棄物低減に向けた取り組みを進めると並行し、資源利用効率化に徹底的に取り組み、将来的な環境汚染防止を図ります。

3Rで

廃棄物を出さない



車両を製造する際に排出される廃棄物の削減を図るため、3R(Reduce、Reuse、Recycle)を進め、廃棄物の「減容化」、「再利用化」、「リサイクル化」をグループ各社、取引先などと連携し、追求します。



古い車を活かした

新しい車づくり



バッテリー、モーターといった各部品には、レアメタルやその他貴金属類に代表される天然資源が含まれています。日野グループはそれら天然資源を含め、廃棄される車両から少しでも多くの資源を取り出し、新しく製造する車両に活用する「Car to Car」を極限まで追求することで、新規資源投入量削減に取り組めます。



環境憲章 日野環境チャレンジ2050 CHALLENGE! 1 CHALLENGE! 2 CHALLENGE! 3 CHALLENGE! 4
 CHALLENGE! 5 CHALLENGE! 6 主要パフォーマンスデータ 環境マネジメント マテリアルバランス

工場における省資源事例

廃棄物を出さない

日野自動車では、長期環境ビジョン『日野環境チャレンジ2050』に向けた活動のひとつとして、廃棄物低減にも取り組んでいます。近年では、これまで再利用することのできなかったものについても徹底的に見直しをおこない、社内での再利用に努めています。

主な取り組み事例

- 排水処理場汚泥の減容化
- 鋳型造型時の砂使用量低減
- ろ過フィルター設置による機械加工廃液のロングライフ化
- 分別ルールの徹底

事例 | 分別優良職場コンテスト実施

古河工場では廃棄物に関する分別優良職場コンテストを実施。各職場で分別リーダーを配置し、リーダーを中心に職場内で徹底した分別指導をおこないました。また毎月の分別状況を工場内の会議体を通じて共有することで各職場の意識が向上し、当初75%だった分別率は98%まで上昇しました。



優良職場表彰



分別指導風景



チェック風景

事例 | 廃棄物分別トレーニング

日野モータース・マニュファクチャリング・コロンビアでは、従業員に対して廃棄物の種類をより理解するため、実際の廃棄物を使って分別のトレーニングを行っています。



トレーニング風景

環境憲章 日野環境チャレンジ2050 CHALLENGE! 1 CHALLENGE! 2 CHALLENGE! 3 CHALLENGE! 4
 CHALLENGE! 5 CHALLENGE! 6 主要パフォーマンスデータ 環境マネジメント マテリアルバランス

事例 | プラスチック削減に向けた活動①

昨今の社会的問題を受け、各国でプラスチックゴミ撲滅活動を推進しています。日野モータース・マニファクチャリング・タイランドでは、「Say No Plastic」をスローガンに、全従業員に対し、「レジ袋を貰わない」「飲食時のカップ・容器も極力使用しない」活動を実施。各自の成果に応じ、エコバッグやマイカップをプレゼントし、活動を促進しています。また、脱梱包の一環として、各国でも、プラスチック製の袋を削減するなど、身近でできる活動を着実に推進しています。



プラスチックゴミ撲滅活動のポスター



活動に取り組む社員

事例 | プラスチック削減に向けた活動②

日野モータース・マニファクチャリング・タイランドでは、脱梱包の一環として、足回り部品（ショックアブソーバー）に使用するプラスチック袋の個包を廃止し、専用箱を製作しました。身近でできる活動を着実に推進しています。

改善前



一つひとつ梱包して搬出

改善後



専用箱を製作し、個包を廃止

削減数
544
袋/月

VOICE



全従業員一丸となった 脱プラスチック活動

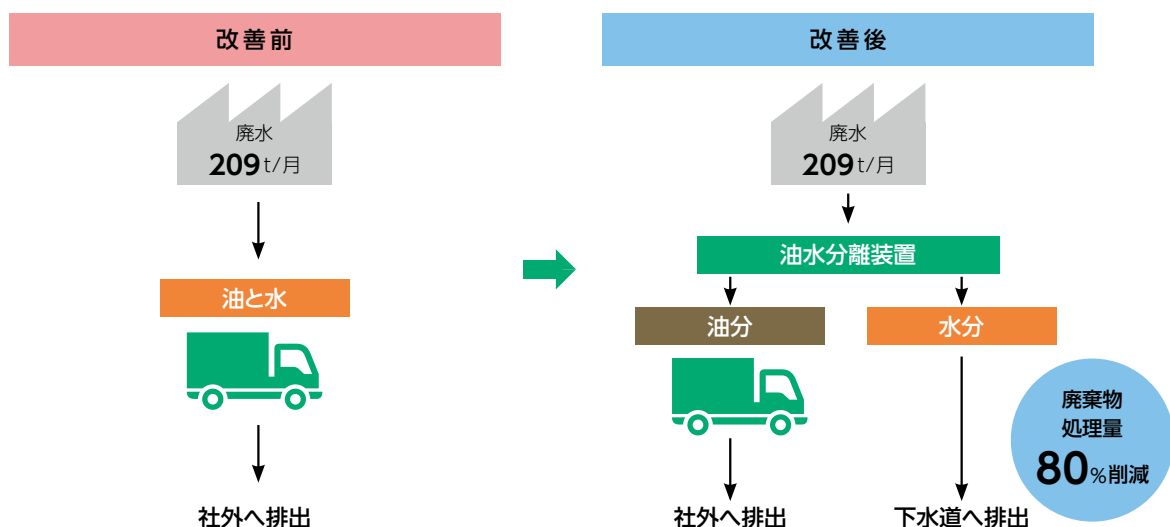
日野モータース・マニファクチャリング・
タイランド
工場長

Paradorn Siripunt

CSR活動の一環として、従業員とその家族、近隣住民やNPOなどの諸団体とも連携し、環境保全活動に努めています。昨今、世界中で問題視されているプラスチック問題に対し、Say No Plasticをスローガンに、全従業員と一緒に、日常生活で取り組みました。私たちは、タイのフロントランナーとして、地球環境をより良くしていきます。

事例 | 油水分離槽設置による汚水の削減

日野モータース・マニファクチャリング・U.S.A.では、工場から排出される含油排水を廃棄処理していましたが、油水分離槽を設置したことにより、油分と汚水に分離することができ、年間廃棄物処理量を80%削減しました。



リサイクル性を考慮した製品設計

廃棄物を出さない

新しい車づくり

日野自動車は1990年代初頭より、リサイクル性を考慮した製品開発、設計に取り組んでいます。1998年には「自主行動計画」を策定し、リサイクル率などの具体的な数値を掲げ、活動の強化を図ってきました。また近年の国内外の環境負荷物質規制に対応すべく、早期の削減に取り組んできました。

製品の開発段階からリサイクルしやすい材料の採用や製品の部品解体性の向上など、さまざまな観点からリサイクル性を高めるチャレンジを進めています。

再資源化段階での環境活動

廃棄物を出さない

新しい車づくり

日野自動車は、2005年から施行された自動車リサイクル法（使用済自動車の再資源化等に関する法律）を順守し、多くの関係事業者のご協力のもと、使用済みの車両から発生するシュレッダードスト（以下ASR）、エアバッグ類、フロン類の特定3品目の引き取りと適正なりサイクル処理を実施しています。

2019年度のASRのリサイクル率は96%となり、法定基準70%を達成しています。また、より解体しやすい車両構造の検討やリサイクル可能材料の採用など、開発段階から環境に配慮した製品づくりを進め、循環型社会の形成と資源の有効活用に継続的に取り組んでいます。



「自動車リサイクル法に基づく再資源化等の実績」はこちら